

## (1) 研究主題

### 進んで学び、確かな学力を身に付けていく生徒の育成 ～「学習課題」と「まとめ」の工夫を通して～

## (2) 主題設定の理由

### ① 新学習指導要領の視点から

令和3年度より完全実施された新学習指導要領では、様々な時代の変化に対応するために必要とされる「生きる力」をより具体化し、それを具現化させていくための「資質・能力」を、生きて働く「知識・技能」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力や人間性等」の三つの柱の整理し、各教科等の目標や内容についても、この三つの柱に基づく再整理を図るよう提言がなされている。

また、「子供たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、これまでの学校教育の蓄積を生かし、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していくことが必要であり、我が国の優れた教育実践に見られる普遍的な視点である「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善）を推進することが求められる。」と明記されている。

中学校学習指導要領解説総則編（平成29年7月）より

### ② 本校の教育目標から

本校では、「自立 自修」を校訓とし、目指す学校像として、

◇文武両道に励む、誇れる学校

教員に求められる心構えとして、

◇「学貴日新」－自ら学び続けて、日に新たななるを貴ぶ

「率先垂範」－子どもは、大人のするとおりに育つ

「凡事徹底」－すぐやる、必ずやる、できるまでやる

目指す生徒の姿として、

◇4S「STUDY（学習） SPORT（体づくり） SPIRIT（精神） SMILE（ほほえみ）」を大切にす生徒

などの項目が挙げられている。

また、経営の重点の中に、「三つのわのある授業」があり、

◇授業のユニバーサルデザイン

◇三つの「わ」がある授業実践

◇ICTや対話の効果的な活用

◇定期テストの在り方の見直し

などが重点として提示されている。

### ③ 生徒の実態から

昨年度12月実施の秋田県学習状況調査結果から、「学習がある日の勉強時間1時間

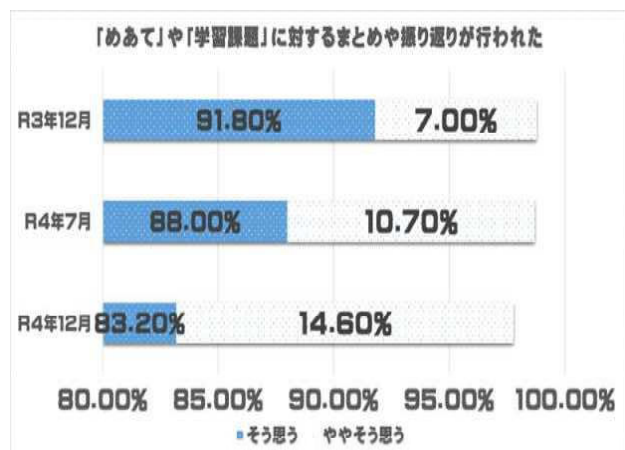
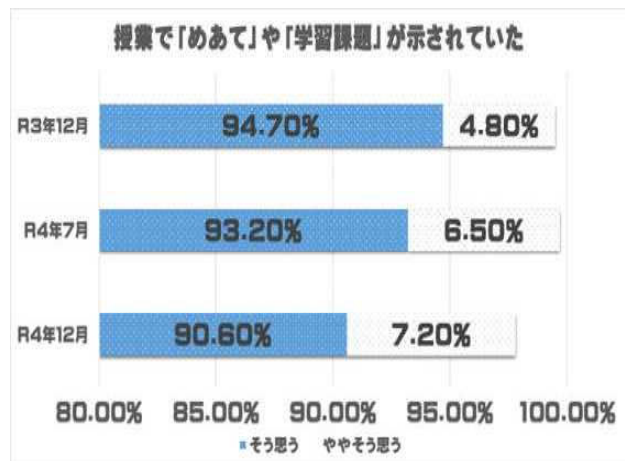
以上」と回答した割合は県平均を上回っており、日常的な家庭学習への取組がうかがえる。「勉強は大切である」という設問に対して、ほぼ全員が肯定的に捉えている。また、「ふだんの授業ではICT機器をどれぐらい使用していますか」という設問では、「ほぼ毎日」「週1回以上」の合計が県平均を大きく上回っており、1人1台端末環境の実現が提唱されているが、本校においては十分に活用されている。

勉強の大切さを理解し、日常的に家庭学習への取組がされていると考えられる一方、「勉強が好きだ」としている生徒の割合は昨年度まで同様県平均を下回っている。各教科の平均通過率においても、一部の教科をのぞいては県平均を下回る結果となっている。



令和4年度 秋田県学習状況調査

昨年度の生徒による学習アンケート結果からは、「授業で『めあて』や『学習課題』が示されていた」の項目において、「そう思う・ややそう思う」の肯定的回答の割合が一年間を通して徐々に低下していることが明らかとなった。「『めあて』や『学習課題』に対するまとめや振り返りが行われた」「『めあて』や『学習課題』を意識して取り組んだ」「『分かった(できた)』という気持ちになった」の項目においても同様の結果となっている。



令和4年度 生徒による学習アンケート

本校生徒の多くは、家庭学習、授業ともに前向きに取り組んでいるものの、学習課題を自分ごととして捉えて学習に臨み、学習内容のまとめや振り返りを通しての見直しが十分にできていないこと、が課題として考えられる。

#### ④ 昨年度の成果と課題を踏まえて

昨年度は、学んだことをいかに定着させていくか、ということに重点をおいて様々な取組を行ってきた。その取組を通して、自分ごととして追究できる、学習内容にひきつけられる学習課題の設定から、振り返りやまとめによる到達の確認までの授業の流れはかなり浸透し、定着してきている。このことは、研究授業での意見交換や相互授業参観などからも確認することができた。

一方で、生徒の授業アンケートから、生徒の目線としては、「授業で『めあて』や『学習課題』が示されていた」「まとめや振り返りが行われていた」「学習課題を意識して取り組んだ」の項目がいずれも昨年度を下回る結果となった。

これらの項目について、教師側の意識付け並びに共通実践として、生徒が自分ごととして主体的に学習に取り組めるようにする学習課題づくりとその提示の在り方についての工夫改善が今年度の課題となる。

学習内容の定着という点では、前述のとおり各教科とも課題を抱えている。「分かった（できた）」という実感や、学習活動の満足度が学習内容の定着に結び付いていないという状況も見られる。

そのため、今年度は、学習課題を自分ごととして捉えさせる提示の在り方、その課題に対して自ら学習が進められるような活動の工夫、「まとめや振り返り」による学習内容を確認する場面設定、を一層充実させる必要があると考える。学習を通して、何を学んだのか、何が分かったのか、どのように学んだのか、などを自分の言葉で説明することができるような場を意識的に設定することで、学習内容の確実な習得、活用を図りたい。その際、「通常の学級の授業において特別支援教育の視点を生かした指導・支援の工夫を図ることにより、全ての子どもにとって『分かる・できる』授業を構築する」というユニバーサルデザインの視点を授業づくりに生かしていきたい。

以上の点を踏まえ、今年度は研究主題を「進んで学び、確かな学力を身に付けていく生徒の育成～「学習課題」と「まとめ」の工夫を通して～とし、ユニバーサルデザ

インの視点を生かしながら、更なる授業改善に取り組むこととした。

### (3) 研究の仮説

「わくわく」する学習課題の提示、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた授業づくり、学びの成果を実感できるまとめなどを工夫することにより、生徒は自発的に思考し、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得していくであろう。

### (4) 研究の重点事項と具体策

#### ① 学習課題（ねらい）とまとめ（振り返り）の整合性を図る

- ・問いを引き出すための導入を工夫するなど、自分ごととして追究できるような学習課題を設定する。
- ・学習の見通しを持たせ、生徒が向かうべき姿を明示する。
- ・学びの過程や到達状況の確認を行い、基礎基本の定着につなげられるようにする。
- ・新たな課題や補充学習の必要性を自覚したり共有したりできる振り返りを通して、学習の自己調整ができるようにする。

#### ② 自発的な思考を促す工夫（ユニバーサルデザイン化）に努める。

- ・「課題（ねらい）」「まとめ」「振り返り」、各教科の「見方・考え方」などのカードを活用し、「見通しがもてる」「整合性のある」授業を展開する。
- ・学習が苦手な生徒も、学びの流れが分かり、まとめや振り返りに活用できるような構造的な板書づくりに取り組む。生徒の状況により、タブレットで板書を撮影

することも許可する。

- ・考えたことを比較・検討しながら新たな発見や問いにつなげられるよう、思考を可視化し、対話を通して考えを広げたり、深めたりする場を設定する。
- ・ICTを活用し、多様な情報を提供することで情報活用能力を育成し、新たな問いや課題解決を促す。
- ・三校連携事業で作成した「話し方・聞き方系統表」を活用し、学びへの主体的な関わりを目指す。また、今年度より学校教育目標となった、「顔はひまわり心は思いやり」による聴き方、話し方の意識付けを図る。

天王南中学校区で目指す「聞き方・話し方」の系統表

2020年3月

	聞き方	受けてつなぐ (問いを発する姿)	話し方
小1	話し手に体を向けて聞く。	受容の表情や身振り、手振り	はっきりした発音で、相手を見て話す。
小2	うなずいたり相づちを打ったりして聞く。	聞いたことを復唱する。 「なるほど、…。」	相手に聞こえる声で、語尾までしっかり話す。
小3	聞いた内容について、感想や意見をもちながら聞く。①	互いの意見の共通点や相違点に着目する。 「友達の考えと同じところは…。違うところは…。」	場や相手に応じた言葉づかいで丁寧に話す。
小4	必要なことを記録したり質問したりしながら聞く。①	聞いた事柄を基に疑問点を問う。 「～というのは、どういうことですか。」	理由を挙げ、筋道を立てて話す。
小5	話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えて聞く。②	自分の理解を確かにする質問をする。 「それは、～ということでしょうか。」	具体例を挙げるなどして、分かりやすく話す。
小6	話し手の考えと自分の考えを比較しながら聞く。③	比較しやすいように違いを明確にし、自分の考えを問いかける。 「私は～と考えますが、どうですか。」	与えられた時間を守り、簡潔に話す。
中1	相手の意図に沿った質問をもちながら聞く。①	話題を意識しながら互いの発言を結び付けて考えをまとめる。	場に応じた速度、音量、間、語句で話す。
中2	論理の展開に注意し、話の要点を捉えて聞く。②	共通点や相違点、新たな提案を踏まえ、結論を導くために考えをまとめる。	相手の話を取り入れて、反応を見て話す。
中3	聞き取った内容や、表現の仕方を評価しながら聞く。③	多様な考えを認めつつ互いが合意できる点を見いだす。	質疑応答や意見交換の場で、積極的に話す。

\*互いに受容することから始め、合意形成に向かう姿を目指した9年間の系統表  
\*「受けてつなぐ(問いを発する姿)」は、聞いたことをどう見取るかという課題に応えるための手立てとして新設  
\*①②③は関連する項目に付記


**～ 顔はひまわり 心は思いやり ～**

**(よりよい聞き手になるために)**

- ・話し手の方を向いて積極的・共感的な聴き方をしよう。  
(うなずき・あいづちなど、聞いていることが伝わるような反応)
- ・自分の考え方とのズレや共通点を見出し、新たな問いや追究の視点を生み出そう。

**(よりよい話し手になるために)**

- ・聞き手の方を向いて、相手にどうすれば伝わるのかを意識して話そう。
- ・仲間の良さを認めたり賞賛したり質問したりしよう。
- ・仲間のつまづきや疑問に対して、サポートしよう。



## (5) 研究の進め方

### ① 授業研究

指導主事訪問や相互授業参観等、年間を通じ一人一回以上の授業提示の場を設け、学年部や教科部の枠を越えた、幅広い職員間の情報交換や指導助言により研修を深める。

### ② 研究推進委員会

年3回(4月、10月、1月)実施し、各教科、領域等が同じ歩調で実践が進められるよう、検証の場をもち、スモールステップで改善を行うようにする。

### ③ 教科の枠を越えた研修

指導主事訪問の際は、教科+学年部等、教科の枠を超えたチーム毎に授業研究会を行い、研究の視点に基づく研修を深めながら、進捗状況を把握するとともに、成果と課題を全体で共有し、以後の方向性を検討し直す機会にする。

### ④ 生徒の実態把握

生徒の授業評価アンケート、教師の授業改善の視点に関わる評価をそれぞれ年2回(7月、12月)実施する。全国学力・学習状況調査及び秋田県学習状況調査や標準学力検査の結果や授業に向かう姿勢などと関連付けて分析した上で、本校生徒の実態について検証し、以後の授業改善に生かす。

## (6) 研究の計画

月	研修の流れ	研修・研究授業	検証 その他
4	教科・領域計画立案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画立案 (P)</li> <li>・全体研修会① (P)</li> <li>・研究推進委員会① (P)</li> <li>・学習・生活のきまり定着週間 (D)</li> </ul>	標準学力検査実施 全体研修会
5	研修内容の決定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天南教育執筆 (P)</li> <li>・共通実践事項を意識した授業展開 (D)</li> <li>・自己評価の視点に基づいた授業 (D)</li> </ul>	
6	検証、分析、対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・附中公開春季 (P)</li> <li>・教科・領域部会① (C)</li> </ul>	中間テスト
7	研究授業 検証、分析、対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要請訪問 (道徳・特活) (D)</li> <li>【検証1回目】 (C)</li> <li>教師：自己の振り返り</li> <li>生徒：授業に関するアンケート</li> <li>・課題分析 (C)</li> </ul>	授業研究会 アンケート実施 【検証】
8	検証、分析、対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会① (A) (P)</li> </ul>	研修会 全国学テ分析
9	検証、分析、対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科・領域部会② (C)</li> <li>・所長訪問 (D)</li> </ul>	期末テスト
10	検証、分析、対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究推進委員会② (C) (P)</li> <li>・共通実践事項を意識した授業展開 (D)</li> <li>・自己評価の視点に基づいた実践 (D)</li> </ul>	
11	検証、分析、対策 研究授業 検証、分析、対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上強調期間</li> <li>・教科・領域部会③</li> <li>・教科等訪問 (保体、理科、国語、家庭) (D)</li> <li>・全体研修会② (C) (A)</li> <li>・附中公開秋季 (C)</li> </ul>	授業研究会 研修会 全体研修会 中間テスト
12	検証、分析、対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を見合う会 (相互授業参観) (D)</li> <li>【検証2回目】</li> <li>教師：自己の振り返り</li> <li>生徒：授業に関するアンケート</li> <li>・課題分析 (C)</li> </ul>	アンケート実施 【検証】 県学習状況調査
1	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科部会③ (C)</li> <li>・研究推進委員会③ (C) (P)</li> <li>・全体研修会③ (C) (A)</li> </ul>	県学習状況調査結果分析 全体研修会
2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究のあゆみ執筆 (C) (P)</li> </ul>	期末テスト
3		<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究のあゆみ発行 (C) (P)</li> </ul>	

## (7) 令和5年度 研修一覧

### 【中央教育事務所 研修事業・講座】割当てによる研修事業

月・日 (曜)	研修事業・講座名	対象者
5月11日 (木)	安全管理指導者研修会	教 頭
6月26日 (月)	中高連携授業改善セミナー	鈴木 (理)
6月28日 (水)	交通安全指導者研修会	近 江
8月 4日 (金)	中学校教育課程説明会 (国語)	間 瀬
	〃 (理科)	小 玉
	〃 (家庭)	藤 沢
	〃 (外国語)	進 藤
9月21日 (木)	英語担当教員授業力向上研修	鈴木 (健)

### 【秋田県総合教育センター A講座】基本研修講座

(経験年次別研修と職務別新任者研修があり、該当者全員が受講する講座)

講座番号	月/日 (曜)	講 座 名	対象者
A- 6	5月23日 (火)	実践的指導力習得研修講座 (中学校2年目)	間 瀬 藤 沢
	8月21日 (月)		
A- 11	7月 5日 (水)	教職5年目研修講座	鈴木 (理)
	10月17日 (火)		

講座番号	月/日 (曜)	講座名	対象者
A-36	5月12日(金) 9月25日(月)	中学校新任生徒指導主事研修講座	近江
A-39	7月4日(火) 9月12日(火)	小・中学校新任道徳教育推進教師研修講座	進藤
A-41	5月15日(月) 9月29日(金)	小・中学校特別支援学級新担任研修講座	小松
A-44	4月27日(木)	中学校講師研修講座A	石井

【秋田県総合教育センター C講座】専門研修講座（所属長の承認を得て自主的に受講する講座）

講座番号	月/日 (曜)	講座名	対象者
	8月23日(水)	働き方改革のための業務マネジメント	佐藤(信)
C-08A	7月7日(金)	生徒が主体的・対話的に学ぶ中学校数学科の授業づくり	七尾
C-26	9月12日(火)	「主体的・対話的で深い学び」のある道徳科の授業づくり	松塚
C-27	6月30日(金)	魅力ある学級活動を目指して ～小・中学校特別活動研修講座	佐藤(和)
C-36	6月30日(金)	いじめの理解と対応	鷲谷
C-37	7月31日(月)	不登校や集団不適應の悩みを抱えた児童生徒の支援	杉本
C-40	10月25日(水)	教育相談に生かすカウンセリングの技法	小栗
C-41	7月7日(金)	主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり ～知的障害のある児童生徒への「教科別の指導」と授業改善	石井
C-43	8月18日(金)	自校におけるインクルーシブ教育の推進	鎌田